

中国：国家能源局¹、洋上風力の買取価格を設定²

新エネルギー・国際協力支援ユニット 新エネルギーグループ

本年6月、中国国家能源局は洋上風力発電固定買取価格を発表した。洋上風力発電は設置されるエリアによって、潮間帯風力発電と近海風力発電の2種に分けられ、前者に対しては0.75元/kWh、後者に対しては0.85元/kWhが適用される。

中国初の洋上風力発電所は上海東海大橋洋上風力発電所（102MW）で、実証プロジェクトとして2010年に稼働を開始した。第12次5ヵ年計画（2011-2015年）では、洋上風力発電設備容量を2015年に500万kWにするという目標を設定し、実証プロジェクトの成果を基礎に洋上風力発電の大規模発展を促進するとしている。

しかしながら、2013年末現在の導入量は430MWに留まっており、上記目標の達成が危ぶまれている。その要因としては、これまでの固定価格買取制度は通常の固定価格買取制度と異なり、買取価格が tender の結果によって決定されること（入札固定価格買取制度³）、また、そのレベルが低く発電事業に適切な投資インセンティブを与えることができないことが指摘されていた。

2010年、中国政府が実施した第一回目の洋上風力発電プロジェクト（江蘇省沿岸に200MWと300MWの発電所をそれぞれ2箇所ずつ建設するもの）の入札価格は、0.62元/kWh～0.73元/kWhであった。しかし業界からはこの価格では採算がとれないとの声があり、専門家からは1元/kWhが妥当ではないかとの意見が寄せられていた。

中国は世界一の陸上風力発電導入国であり、2013年末の導入量は約90GWに達する⁴。陸上風力の固定価格買取制度も当初は入札固定価格買取制度であったが、2009年に通常の固定価格買取制度に修正され、全国を4種類の風力資源地域に分けて、買取価格をそれぞれ0.51元/kWh、0.54元/kWh、0.58元/kWh、0.61元/kWhに設定した。

洋上風力発電は陸上風力発電と比べて開発費が高く、陸上風力の固定価格の2倍が必要との意見もある。今般、新たに設定された洋上風力発電固定価格のレベルは業界が期待するレベルには及ばない。しかし、洋上風力は電力消費地である東沿岸部と近く、陸上風力

¹ National Energy Administration: NEA

² 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外省エネ等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

³ 洋上風力開発プロジェクトの実施者を競争入札によって選定し、買取価格を tender の落札価格を参考にして決定するもの。

⁴ Global Wind Energy Report Annual Market Update 2023 (GWEC) 参照

<http://www.gwec.net/wp-content/uploads/2014/04/GWEC-Global-Wind-Report-9-April-2014.pdf>

よりグリッド連系しやすい優位性もあり、洋上風力発電の今後の進展に大いに貢献するものと考えられる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp